

流域治水の加速化・深化

流域治水の推進

気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、堤防の整備、ダムの建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、集水域※1 から氾濫域※2 にわたる流域の国・県・市町村・企業・住民等のあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う「流域治水」の加速化・深化を図り、「水災害による被害の最小化」を実現します。

※1 集水域：雨水が河川に流入するエリア ※2 氾濫域：河川等の氾濫により浸水が想定されるエリア

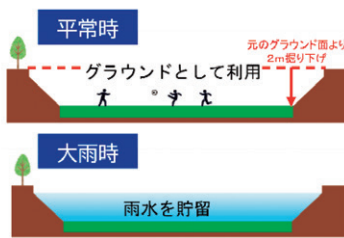
九州における流域治水の取組事例

雨水貯留施設の整備

福岡県久留米市により、大学のグラウンドを活用した雨水貯留施設が整備されました。



久留米大学グラウンドでの雨水貯留施設（筑後川水系）



水害リスクが高い地域からの移転

移転先確保のための災害公営住宅や新たな宅地等の整備と連携して河川整備（引堤・遊水地）を実施しています。



河川整備と連携した水害リスクが高い地域からの移転（球磨川水系）

流域治水の基本的な考え方



流域治水の自分事化

流域内の企業や住民等に対して、水災害時の避難行動計画（マイ・タイムライン）や事業継続計画の作成支援といった流域治水への理解を深める取組を自治体や河川協力団体等と連携して行っています。



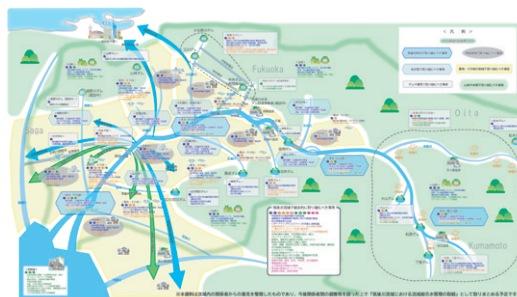
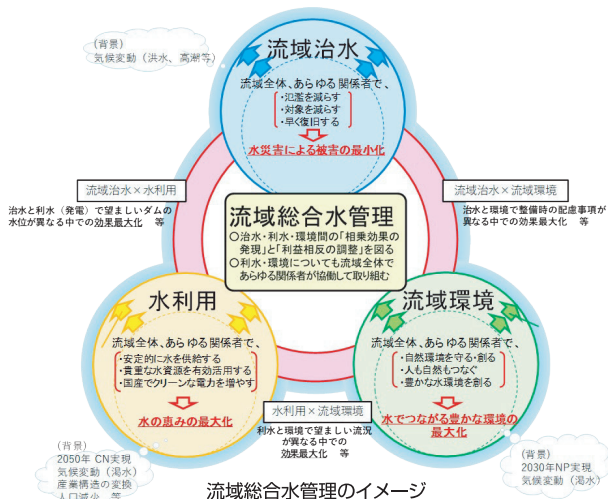
事業継続計画(BCP)の作成支援（緑川水系・熊本県御船町）

小学生によるマイ・タイムラインづくり（番匠川水系・大分県佐伯市）

流域総合水管理の推進

流域治水・水利用・流域環境の一体的な取組の推進

治水に加え、利水・環境に対しても流域全体であらゆる関係者が協働して取り組むとともに、流域治水・水利用・流域環境の一体的な取組を進めることで「水災害による被害の最小化」「水の恵みの最大化」「水でつながる豊かな環境の最大化」を実現させる「流域総合水管理」を推進します。九州では、先行して、筑後川水系において流域総合水管理の取り組みを進めており、令和7年度は、流域のあらゆる関係者との意見交換を基に、筑後川での取組イメージを取りまとめました。



筑後川における流域総合水管理の取組イメージ



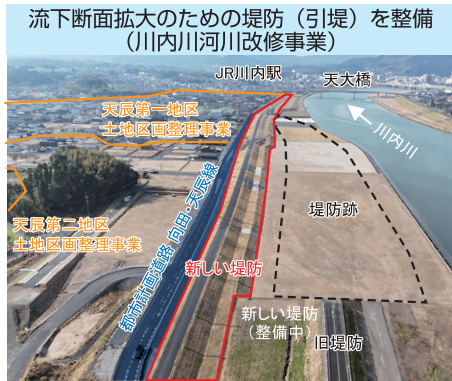
筑後川流域水懇談会(令和7年3月設置)による議論

防災・減災、国土強靱化の着実な推進

近年の気候変動の影響により激甚化・頻発化する水災害や切迫する地震災害に屈しない強靱な国土づくりに向け、九州地方整備局では「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を着実に進めます。

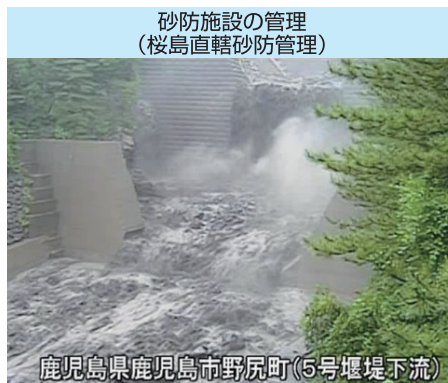
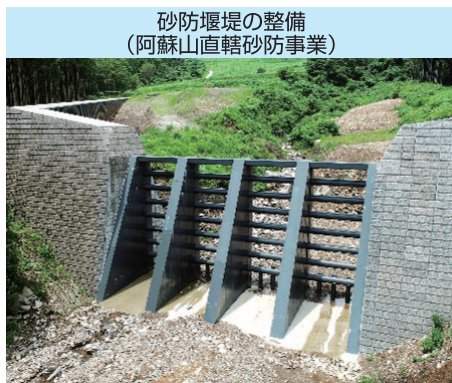
水害の頻発・激甚化に対応する治水対策の推進

安全・安心を確保し、社会経済の活力を維持・増進していくため、激甚な水害が発生した地域において、集中的に防災・減災対策を実施します。また、想定される被害状況を踏まえ、治水安全度の抜本的な向上を早期に図るため、事前防災対策などの治水対策も重点的に実施します。



総合的な土砂災害対策の推進

集中豪雨の増加や火山噴火等により激甚化・頻発化する土砂災害に対して、ハード・ソフト一体となった総合的な対策を実施します。



海岸侵食対策の推進

侵食が進行している宮崎海岸において侵食対策を実施します。



次の世代へ繋ぐ魅力ある川づくり

河川環境の保全・創出

河川の整備においては、各流域の特性に応じた多様な生物の生息・生育・繁殖環境の場を保全、創出します。



アユの産卵場となる良好な環境を創出するため、加藤清正公が約400年前に築造したと言われる「八の字堰」を復元

水辺を活かしたまちづくり(かわまちづくり)

地域や自治体等と連携し、まち空間と融合した魅力的な河川空間の整備・活用等を行い、地域の賑わい創出を推進します。

